草月流

多田晴綾師範

儚さの　　港子

世を良しと生き

夏つばき

夏椿は、開花すると一日だけの花で、ぽとりとすぐに落ちてしまう。その様から、無常の世の象徴のように思われてきた。平家物語の「沙羅双樹の花の色」で言われている沙羅双樹は黄色の花を咲かせるそうだ。夏椿とは異なるが、花ごとぽとりと落ちる夏椿の様は、不運に思えて仕方ない。しかし、限りある命を生きる私どもは、その死さえ受け入れることによって生きることの意味を見出せると信じている。

米国のガリガリ亡者の話。「あげる」のは大嫌いで「もらう」ことしか頭にない。その彼氏が池にはまって大騒動。多くの人が集まり救出活動が始まった。「あなたの手を私にください（give）そうすれば助けられますよ」の声には反応しなかった。

しかし、彼を良く知る友人が「私の手を取りなさい（take）そうすれば助けられますよ」には反応した。生死を分けるときにも筋を通すんだ。

【響メモ】